

神奈川県立平塚江南高等学校における学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した

審議会名称	神奈川県立平塚江南高等学校 令和7年度 第1回学校運営協議会
開催日時	令和7年6月14日(土) 13:00～15:30
開催場所	神奈川県立平塚江南高等学校 会議室
[役職名] 出席者	<p>[委員] 宍戸 章子(会長)</p> <p>山崎 幸子 新田 圭子 香取 祐亮 鈴木 奏到 齋藤 弘 武田 恵美子 逸見 育磨(副会長、平塚江南高等学校長)</p> <p>[事務局] 岩崎 幸代(副校長)、佐藤 竜太(教頭)、今福 聡(事務長)、 島川 淳(総括教諭)、小坂 宏之(総括教諭)、濱口 学士(総括教諭) 辻 祐哉(教諭)、大谷 千鶴(総括教諭)</p>
欠席者	植田 渥士、森下 貴文
資料	<p>神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則</p> <p>神奈川県立学校に設置する学校運営協議会の運営などに関する要綱</p> <p>平塚江南高等学校の予算について</p> <p>令和7年度学校運営の重点課題</p> <p>学校運営に関する資料</p> <p>学校教育計画(目標設定)</p> <p>進路通信</p> <p>学校要覧</p> <p>進路のしおり</p> <p>PTA 広報誌「江南 No.105」</p> <p>神奈川県立学校のコミュニティ・スクールの手引き</p>
	<p>開会</p> <p>1 校長あいさつ</p> <p>[逸見校長]</p> <p>昨年度末にスーパーサイエンスハイスクールⅡ期の申請が通った。今年度も学力向上進学重点校エントリー校として、またSSHのⅡ期校として更なる教育活動の充実に努めていきたい。6月試験が終わり、来週18日(水)の体育祭に向けて生徒もかなりの熱量で準備に向けて取り組んでいる。7月17日(木)には3年生が成果発表会を行う予定である。今年度は四年間の目標を定めた二年目となる。前年度の総合評価を踏まえ、今年度の目標を策定しているので、今後の取組についてもご意見をいただきたい。</p> <p>私が生徒に伝えたいこととして、1つ目は自分の考えを持てるか、そして2つ目は自分の好きなことを伸ばし、いかに大きな目標を持ってそれに向かって努力をするか、また他</p>

人と一緒に協働しながら自分の夢を追うことである。答えのない時代の荒波を乗り越えられるような生徒を育てていきたい。本日は本校の取組について忌憚のないご意見をいただききたい。

2 学校運営協議会の開催にあたって

(1) 学校運営協議会委員の委嘱

(2) 学校運営協議会及び事務局員紹介

[穴戸委員]

SSH 事業にも微力ながら関わっている。今は大学所属であり、大学と高校の両方がある程度理解しているので、その連携も兼ねられると思っている。

[山崎委員]

4 年目になる。応援し、関わっていければ嬉しく思う。中学生が高校の進路を選ぶ時にまずこの学校に行きたいという思いをもってほしい。

[鈴木委員]

お世話になった学校に恩返しをしないといけないという気持ちである。校舎の建替え話があったが、同窓会でもだいぶ動いていた時期があった。さまざまなアプローチがあるのでなかろうかと思っており、協力したい。

[矢野委員]

令和 6 年度に本校 PTA 副会長を務めた。

[新田委員]

勤務している会社の研究所と工場が平塚地区にある。私自身も本社で人材育成に携わっており、高校生に、将来社会に出ていくところで何か役に立てることがあれば幸いである。

[香取委員]

平塚市災害対策課に勤務している。土木などインフラの整備などを行っている。また災害時の避難状況や、地元の方との避難訓練などの計画をしている。そのような視点で担当したい。

[斎藤委員]

富士見地区青少年健全育成連絡協議会会長であり、令和 6 年度 PTA 会長を務めた。自治会の会長もやっており、現在避難所運営協議会のリーダー的役割も担っている。引き続き頑張っていきたい。

[逸見校長]

あらためてよろしくお願いしたい。

(3)学校運営協議会について

[逸見校長]

この制度の目的は、学校運営に保護者や地域住民等が参画して熟議を重ねて協働し、社会に開かれた教育課程を実現するということである。学校運営協議会の設置に関する規則に即して運営を行い、校長を経由して教育委員会に対する意見を見せることができると決められている。ついては学校運営についてぜひとも忌憚のないご意見をいただきたい。

なお令和7年3月に開催した令和6年度第3回学校運営協議会において、平塚江南高校の校舎建替えについて教育委員会に意見申出をし、その回答が届いた。回答内容は、建替えは難しく老朽化対策に伴う長寿命化を図るとともに、維持更新していることを検討したいというものであった。

今年度も学校経営を強化するために委員の皆様にお力添え頂きたい。

(4)会長及び副会長の選出

神奈川県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の第7条、会長、副会長に基づき、互選による選出となり、会長は穴戸委員、副会長は逸見校長に決定した。

<一同承認>

3 協 議 （議長：穴戸会長）

（1）学校運営協議会の組織について

ア．学校評価部会

[穴戸会長]

学校評価部会の委員について協議いただきたい。

[逸見校長]

学校評価部会については、私を除く7名の皆様に委員になっていただきたいと考える。

[穴戸会長]

委員は会長から指名となるので、異論なければ、そのように指名する。

<一同承認>

イ．学校設置部会

[穴戸会長]

学校設置部会についてはいかがか。

[逸見校長]

学校設置部会は「授業改善部会」「キャリア部会」「地域・防災部会」の設置をお願いしたい。

[穴戸会長]

学校設置部会についてはいかがか。

<一同承認>

[穴戸会長]

各部会の構成員についてはどうか

[井野校長]

授業改善部会には宍戸会長、山崎委員、佐藤教頭、小坂総括教諭、濱口総括教諭、植田総括教諭、の計6名。

キャリア部会には鈴木委員、新田委員、矢野委員、岩崎副校長、島川総括教諭、の計5名。

地域・防災部会には齋藤委員、香取委員、逸見、今福事務長、大谷総括教諭、森下総括教諭の計6名を、それぞれ会長からご指名願いたい。

[宍戸会長]

逸見校長よりの推薦についていかがか。異論なければ指名する。

<一同承認>

(2)令和7年度神奈川県立平塚江南高等学校の学校運営について

[宍戸会長]

次に、令和6年度神奈川県立平塚江南高等学校の学校運営について、に移る。

ア 学校の教育計画に関すること

イ 教育課程の編成に関すること

ウ 学校組織の編成に関すること

エ 学校予算の執行に関すること

オ 学校施設及び設備等の管理及び整備に関すること

まで、順に説明の後に各委員からご意見ご質問あれば発言いただきたい。

ア 学校の教育計画に関すること

[逸見校長]

年度当初、職員にも示したが、生徒がのびのびと考え、力を発揮してくれる、といったことを行っていきたい。令和7年度の取組としては、学力向上進学エントリー校として重点校への移行を目指している。結果はついてくるものなので、日々の授業そして活動をより充実して行きたい、そのためには職員が同じ方向を向いていくということが必要であるとする。また、二番目としてSSHⅡ期として指定された重責を感じており、生徒が探究にしっかりと取り組むことができること。大学受験には直接的には関わらないという意見もあるが、20年後30年後に成果が出るのでも構わないと思う。自分で探究し続けるという制度を作っていきたい。理数系が中心になる面もあるが高校3年間の中で全教科で取り組んでいきたい。生徒の良さ、学校の良さというものをできるだけ小中学生そして社会に発信して行きたい。

イ 教育課程の編成に関すること

[小坂総括教諭]

教育課程編成の特徴。今年度入学生は、SSHⅡ期申請にあたり、教育委員会からの助言もあり、教科理数を採用するなどの変更をおこなった。これまで学校設定科目の共創探究で扱ってきた内容を、共通教科とし、さらに1単位増やすことによって、教科情報と探究的な学習をより重視するカリキュラムとした。

ウ 学校組織の編成に関すること

[逸見校長]

組織に関しては組織図を参照されたい。今年度は7つのグループに6名の総括教諭を置いて活動を行っている。職員構成は非常勤講師も含め総勢115名という規模で学校教育を行っている。

エ 学校予算の執行に関すること

オ 学校施設及び設備等の管理及び整備に関すること

[今福事務長]

予算及び、施設設備等について説明申し上げる。

予算に関してはあくまで5月末現在時点での状況である。令和7年度の事業予算としては合計で1億1680万円であり、令和6年と比較すると2730万円ほどの減額であるが単純比較はできない。教育財産管理費は約880万円ほど減額になっているが、施設の改修など急遽必要な場合は振り込まれる。昨年度は花壇の新規事業や学校施設の長寿命化対策工事費が含まれ、本年度も引き続き施工中である。(北館・中館の一部階段の手すり設置、体育館の防虫処方等)

協 議

[鈴木委員]

長寿命化対策が進むことで建て替えの目処が立たなくなるのではという懸念がある。今後とも連携してアプローチを工夫していく必要がある

[宍戸委員]

他の学校の修繕状況の比較も必要であり、今後、情報の確認もお願いしたい。

以上、ア～オについて承認いただけるか。

<一同承認>

(3)神奈川県立平塚江南高等学校の教育活動等について

[宍戸会長]

神奈川県立平塚江南高等学校の教育活動等について事務局から報告願いたい。

ア SSH事業・授業改善

[辻教諭]

(スライドにより、SSH事業については、外部講師による講演の実施、サイエンススタディ、グローバルサイエンススタディ、海外研修についての説明。

授業改善については、今年度のテーマと推進計画について説明。)

イ 各グループ担当業務に係る説明

[岩崎副校長]

グループ目標について、各担当から説明する。グループ目標は令和6年度第3回学校運営協議会で、各委員のご意見を頂戴した上で設定したものである。

視点1「教育課程 学習指導」

[辻教諭]（研究開発 G）

すべての教科で探究的な学びを推進し、before after カードを活用して授業改善を進める。情報活用能力、問題発見能力、論理的思考力等の資質能力向上を目指す。

視点2「生徒指導・支援」

[佐藤教頭]

「神奈川こどもサポートドック」を年2回実施する。不登校生徒への組織的対応と関係機関との連携を深める。自転車通学時の交通安全教育をPTAと連携して推進する。部活動加入率は92%である。部長会を通じて意思決定力、共感力、共同する力などリーダーに必要な力を育成する。

視点3「進路指導・支援」

[島川総括教諭]（進路支援 G）

生徒に高い目標を持たせ、第一志望を諦めさせない支援を徹底している。指定校推薦利用希望者が増加傾向（7年前の3倍）である。物価高騰の影響で一般受験の受験校数が減少傾向である。

視点4「地域等との協働」

[大谷総括教諭]

地域連携の先進事例から教員が学ぶ機会を創出する。生徒が地域イベントに参加する機会を増やし、地域貢献を推進する。夏休みのスタディアシスト（小学生・中学生への学習支援）や防災教室（地域との連携）を継続・拡充していく。

視点5「学校管理・学校運営」

[佐藤教頭]

不祥事ゼロを目指し、職員の不祥事防止研修を実施している。「働き方改革」の取組としては、勤務時間外の電話を音声アナウンス対応とすること、職員会議の効率化を図ること等を進める。グループリーダーのマネジメントのもと、業務効率化と組織力強化を進める。

[濱口総括教諭]（管理情報 G）

特に小中学校へ本校の魅力を発信する工夫をしていく。地域との連携についても広報をしていく。

(4)その他（意見交換）

[宍戸会長]

委員の方から意見、質問を伺いたい。

[山崎委員]

「結果は後からついてくる」「20年後30年後の成果」という校長先生の言葉に感銘を受けた。目先の成果だけでなく、点でなく面で子どもたちを育てることが重要である。平塚

江南高校の魅力を中学生・小学生に伝えるため、生徒の生の声が最も有効であると以前にも提言した。特に、授業が楽しいという点が重要であり、「できないことができるようになった」「学びが繋がった」といった生徒の声を届ける工夫を要望する。夏休みのスタディアシストの継続・拡大と、中学校への情報発信を迅速に行うことを要望する。体育祭など学校行事の様子を小学生・中学生に見える形で工夫することを提案したい。特別支援学校のセンター機能活用に関する報告を受け、面接がなくなった入学試験制度において、集団生活に課題を抱える生徒への支援体制が重要になってくると考える。不登校対策も含めた組織的支援の必要性がある。

[鈴木委員]

キャリア部会の立場からいうと、企業が求める人材の変化を意識することが必要である。AI の進化により「情報処理」や「情報収集」よりも「企画する力」「人を巻き込む力（コミュニケーション力）」がより一層求められる。高校時代の部活動や学校外での多様な経験を通じて、これらの力が培われるため、SSH の取り組みは評価できる。「諦めさせない」という進路指導の方針は、生徒だけでなく保護者にとっても良い刺激になる。市制 100 年に向けて企画している平塚市の中心をリビングにするという構想に高校生が積極的に参画し、町の魅力を高校生なりに発信する企画（DX 活用など）にチャレンジすることで、地域貢献と生徒の企画力育成を両立できるのではないかと考える。同窓会としても支援したい。

[宍戸会長]

大学教員の視点から、チャット GPT などの AI ツールを学生が安易に利用することが懸念される。「自分で考える力」「自分らしい答えを出す力」が重要である。やりたいものが見つかり、人は成長する。本学でも「夢を大きく持つこと」が国立大学院進学に繋がる例があり、高校時代に「やりたいこと」が見つからないと、学校全体で高い目標に挑戦する機会を提供し、生徒が成長できるよう支援することを要望する。体育祭などもヒドゥンカリキュラムとして捉え、生徒の成長に繋げるべきである。

[矢野委員]

卒業生の親として聞いた話だと、指定校推薦で進学先が決まった生徒が、一般受験の友人を「かわいそうだ」と感じ、特に 1 月は受験生を休ませてあげたいと学校に配慮を求めている。受験形態による生徒間の状況の違いがある。

[新田委員]

高校 3 年間で単なる大学への準備期間ではなく、多感な時期として大切に過ごしてほしい。社会に出てからの「人との関わり」が重要である。スマートフォンで何でも済む時代だからこそ、自分の意見を発信し、他者の失敗を恐れずに自由に意見交換できるような人間関係を高校時代に培うことが大事である。知識を詰め込むだけでなく、日常生活や社会との関わりを通じて「自分で考え、一歩先を見る力」を養ってほしい。

[香取委員]:

防災教育に関して、生徒が地域の防災活動に参画する機会を増やし、災害時に行動できる

人材育成をお願いしたい。学校行事（体育祭など）を平日開催している現状を踏まえ、地域住民や小中学生が見学できるような工夫（例えば授業時間内での一部公開）ができないものだろうか。自転車事故が多い現状から、地域と連携して自転車の通行規制（一方通行化など）を再検討したい。

[齋藤委員]

X 更新は大切。X による情報と、文化祭に訪れて江南を志望校にし入学したお子さんもいる。中学校は体育祭の仮装を授業としてみさせるといいかもしれない。自身の子供の経験からも、高校で明確な目標を持ち努力することが重要である。「自分の選択を正解にするための努力」を学校でも支援してほしい。平塚市の将来構想に関する住民サミットに、平塚江南高校の生徒も参画し、駅周辺の魅力向上（自由に勉強できるスペース設置など）に意見を出すのはどうか。学校の防災教室と地域の避難所開設訓練を連携させ、学習したことを実際に行動に移す機会を設けたい。

[逸見校長]

広報に関しては、この度、管理情報 G がこれまでの X に加え、Instagram を開設した。より一層魅力の発信に努めたい。

4 設置部会の協議・報告

○授業改善部会: [部会長 山崎、副部会長 穴戸]

新カリキュラムにおける共創探究の背景の説明を受け、教員の心構えの重要性を議論した。教科横断は、知識の横断よりもスキルを横断し、学び方がつながる仕掛けとして捉えた。中学校での総合的な学習の現状について情報共有を行った。子供たちが好きなことを見つけて学びに向かう意欲を醸成することが最も重要である。教科横断や ICT 活用は、あくまで学びを促進するためのツール・仕掛けであり、それ自体が目標ではない。育成したい能力を明確にし、そのためのツールや仕掛けを活用する授業づくりの事例を共有した。

○キャリア部会: [部会長 鈴木、副部会長 新田]

進路指導において、目標設定や大学・学部、さらには社会への接続を意識した生徒への情報提供の重要性が議論された。若手卒業生（特に直近数十年卒）の人材データベースを構築し、同窓会が各年代の人脈を活用してサポートできる体制を整える方針である。過去に学校で講演実績のある若手講師（三井氏など）の情報も参考に、学校側からの講師候補リストがあれば、それに同窓会側で情報を追加していく。同窓生を含む地元企業とのつながりを活かし、生徒の見学や研修といったきっかけ作りを検討する。

○地域・防災部会: [部会長 齋藤 副部会長 香坂]

学校主催の第 2 回防災教室では、地域と連携した防災訓練の両方をより良く実施していく方針を確認した。避難所運営に視点をおくことなども検討しており、今月末の運営委員会等を含め、具体的な内容を今後詰めていくことが確認された。

<質疑応答は特になし>

5 事務局から

(1)今後の日程等について

- ①今年度は年 3 回の開催を計画している。次回は 12 月 13 日（金）、最終回は令和 8 年 3 月 14 日（金）（学校評価を含む）
- ②体育祭は来週 6 月 18 日（水）に開催予定。
文化祭は 10 月 24 日（金）、25 日（土）に開催予定。
SSH 成果発表会:は 7 月 17 日（木）に開催予定。
公開研究授業:は 12 月 15 日（月）に開催予定。

[逸見校長]

本日出席いただき感謝する。今後の 2 回の協議会についても協力をお願いしたい。学校行事へもぜひ参加していただき、生徒たちが活発に活動する様子を直接見ていただきたい。

閉会